

と述べ、最後に社会民主主義の弾力性を説いて客観的状態に應じ時に共産主義に反抗し、現下のフアツショロ控願期にフアツショロ反対を唱へる所以と、自主的發展に依る組織力擴大、無産階級の統一に¹⁰進するものなりとし、大衆黨との合同問題は各地の地方事情を明かにし之を尊重するとして結論（此間約一時間を要す）

○松岡清吉氏の報告演説

無産階級の歴史は分岐に次ぐ分岐で絶えず歴史のみであるが吾等は能く此立憲の精神を守つて行き度いと前置して松岡氏が國家社会主義を昨年夏頃から唱へ出して以來の演説事情の一、二例（一月十七日の青年將校事件後同も全く赤松氏が實力を有てゐることを盛んに宣傳したことや

社会青年同盟の三井銀行襲撃事件や、赤松氏の生活救済の變化等を挙げて、赤松氏が完全にフアツショロ行動に轉落したと斷言して、此の間松岡氏が赤松氏の爲に憂慮し忠告したこと、再三をもちりしを述べ、遂に赤松氏が國家社会主義以前の思想を全部離棄すべしと稱し小黨に於いて是黨するに至つた事情を説き最後に大衆黨との合同問題に關して、今や反共産主義に立脚して勢力ある無産階級が成立する絶好の機会にありとし、即ち大衆黨の大勢は共産主義を排除した社会民主主義政策に傾いてゐる、從て之を避ぶるに断往を待たない定客の態度を以て¹¹處むべきなりと述べ「我輩不歸てり」「べあると、

（此の間約一時間を要す）